

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300525		
法人名	有限会社 介護生活研究所		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	熊本県人吉市鬼木町1423-1		
自己評価作成日	平成27年3月31日	評価結果市町村受理日	平成27年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

信頼関係を「ゆっくり、いっしょに」築いていきます。ご本人やご家族との信頼関係を築く事が大切で、その信頼関係の中で創りだされる「ゆっくりであること」「いっしょであること」を念頭に自立した生活ができるように介護支援を行っていきたくて思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から数年を経て地域での認知度も徐々に高まる中、本年度は更に併設施設が増え高齢化が進む地域で地元に着した運営を展開している。季節毎の自宅訪問や掃除や調理への関わり、日課となった好みの飲料を自販機で購入するなど入居後も以前の生活スタイルを継続し、一人ひとりがホームでの日々生きがいを持って暮らしている。管理者は家族の顔を見て話しをすることを心情としており家族会の中で更に意見を引き出しながら共に入居者の暮らしを支える努力をしている。揃っての外出が難しくなる中、地元公園での花見には9名全員で出かけ、心づくしのできたて弁当が後で届けられるなど、心ある支援が実践されているホームである。これからも「ゆっくり、いっしょに」の精神を大切に日々の支援に取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を伝え施設方針を共有しております。玄関にも掲示し、ご家族、外部者にも随時、確認して頂けるようにしております。時間に追われる事なく生活を送り、外出、行事参加を行っております。	開所時の理念を継承し、離職の少ない安定した職場環境の中馴染みの職員による支援が展開されている。昨年、併設事業所の立ち上げに伴い経験者として異動になった職員の後をうけ、新たに配属された職員にも理念を通じてホームの考えを伝え、働きやすい環境作りに努力している。また、運営推進会議の中でも年度当初には改めてホームの方針を紹介し、地域へ向け啓発に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出の機会を取り入れ、行事等の参加、施設での行事の案内を行い、顔なじみの関係を目指しております。	年2回の地域の清掃活動には職員が参加し、住民の一員として草刈作業などの環境整備に加わっている。恒例の秋の月見会が残念ながら昨年は中止となったようだが、毎年入居者が楽しみに待たれているようである。高齢者を抱える地元の人々の相談を受けたり、回覧板を使ってホーム主催の研修会(今回は看取りについて)に参加を呼びかけるなど、地域との連携が徐々にできつつある。	研修は地域交流のせっかくの機会であり、運営推進会議などで議題について意見や提案をもらうことも有効と思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ施設での研修会のご案内を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族、町内会長、地区長、民生委員、近隣住民、市役所から参加して頂き、現状報告を行い、ご意見を頂き、運営推進会議後、報告を行い情報の共有を行っております。	奇数月の開催が定着した会議はメンバー交替はあったものの、地域代表者や行政担当者、家族代表など昨年同様の構成で実施されている。会議には代表者も参加し、ホームへの感謝を伝えながら変わらぬ協力を依頼している。ホーム前の道路が狭いことで町内会長より十分注意をすることなどあり難しい言葉も寄せられている。	会議には職員も1名参加しており、せっかくの機会でもあり、何か発言してもらうことで、参加者との信頼関係や職員としての自覚も深まると思われる。また、会議録については玄関などに開示し家族への周知に繋げていたきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時など現状報告を行っております。介護保険の更新時の書類申請など同行出来る方は一緒に市役所に行くようにしております。	行政の担当者には運営推進会議への参加をはじめ、管理者は書類はなるべく持参しホームの現況を伝えながら信頼関係に努めている。市主催の研修会にも可能な限り参加し、その後の復講によりサービスの向上に反映させている。直近では成年後見制度について指導やアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠は行っていません。身体拘束の研修会の参加を行い、周知の徹底を行っております。	虐待や身体拘束に関連する外部研修には積極的に参加し、夜間帯などには職員数名が出席している。管理者は日常のケアの中で疑問や不安を感じたことを職員同士が言い合える環境が重要だとして、何かあれば全員で話し合うよう心がけている。センサーマット使用についてはプランに盛り込み、家族と必要の是非を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修、外部研修に参加し、防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行っている。利用者に対して、必要性を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に説明を行い、署名、捺印を頂いている。質問等あればその都度返答しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡を行ない、現状報告を行っております。問題等あれば、すぐに対応しております。家族会を開き、参加頂けるご家族には参加して頂いております。面会時等も要望などお伺いしております。	入居者の意見や要望等は普段の関わりの中で把握し、誕生日には本人の行きたい場所や食べたいものなど、可能な限り希望に応えている。今年は夏場に行なっていた家族会を季節をずらして、ソーメン流しから手作りの食事会に切り替え、ゆっくりと要望等を聞く時間を設けている。遠方の家族へは電話や封書で現状報告をしているが、地元に住む家族には、管理者が直接出向き話し合う時間を持っている。	家族からの意見や苦情などは特段にあがっていないが、今後は感謝の言葉など職員の励みにもなるようなやり取りも記録に残しておくことも必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い、話し合っている。不定期ではあるが、個人面談を行っております。	職員は毎月のケア会議で入居者の現状を把握して今後を検討したり、行事などへ意見を出し合い支援の充実に努めている。代表者はホーム近くに居住し、頻回に足を運びながら管理者と共に健全な職場環境を目指し、必要な時には個人面談に応じたり、日々の意見に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り希望を聞き入れ対応しております。ストレスをためないよう働きやすい環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会に参加し、希望の研修会などあれば、申し込みを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会の研修会に参加し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者様の思っておられる事を理解し、安心して生活して頂けるよう努めている。入所されてからも普通の会話の中で、情報収集を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話を聞き、出来る限り要望に対応出来るように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設だけの対応ではなく状況に応じて話し合いを行い、個々にあったサービス提供が出来るように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いっしょに、ゆっくりと同じ時間を過ごし、お話をよく聞きながら、安心して生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡調整を行い、定期的に来る方は、外出、外泊をして頂いている。定期的に状態報告を行い、活動写真等郵送している。状態変化あればその都度、連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に外出したりし、近所の方との交流を行っている。行きつけの理髪店での整髪など馴染みの関係を続けられるよう努めている。	入居しても自宅との関わりが途切れないよう、柚子の収穫や草むしり、菜の花摘みなど四季を通じて自宅を訪れ、同時に近隣の人々との交流にも努めている。馴染みの理髪店への送迎、自分の役目として朝からホーム周りをほうきで掃除される方、財布を所持し好みの缶コーヒーを買いに行く方、テーブルをきれいにふき取る方などこれまでの生活スタイルが出来る環境にも配慮している。	これまでの生活習慣を後押しすることは、個々のこだわりや尊厳にも繋がるものと思われる。今後もこの努力が継続されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況を把握し関係作りに努めている。少数での活動や、全体での活動、その時、その時に合わせた対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在対象者なく行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活を大切にし、ご本人様の生活をくずさないように努めている。活動参加は声掛けを行い、その日の状態で参加して頂いている。	職員は入居者との何げない会話からホームでの生活への希望を聞き取り、月の会議で検討し家族の面会時や電話で収集した情報をもとに、入居者の思いを押し量りプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話の中でも情報収集を行いながら、変わらない生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを行い必要な介助の検討を行い、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回状態報告を行い見直しをおこなっている。必要に応じその都度話し合いを行っている。	入居者を職員の担当制とはしておらず、毎月のモニタリングでは9名全員の評価を各職員が行なうことでより多くの気づきが反映されている。担当者会議には調理専任の職員も同席し、プラン内容を共有している。計画作成担当者はなるべく家族のもとを訪れ、わかりやすく説明をした上で承諾を得ている。夫婦で入居中の方には一部屋を寝室とし、不安解消に努めながら互いの負担にならないような内容をプランに盛り込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代時に申し送りを行っている。状態はその都度カルテ、申し送りノートに記入し状態観察に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話し合いを行いながら、出来るだけ対応出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントなど参加、見学し楽しみを見つけながら生活を送れるように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設協力病院以外でも入所以前のかかりつけ医への受診を行っております。	これまでのかかりつけ医を継続して支援し、家族が遠方でない方に関しては、同行を呼びかけており、病院で待ち合わせられるところもある。緊急対応の面から協力医へ変更される方もおられる。定期受診の結果は毎月の手紙の中で報告し、薬の変更などがあればその都度電話連絡を行っている。職員は入居者の変調がないか心がけ接しており、血圧も午前(朝食後)と16時に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約にております。日常生活の中での気づきを大切に少しでも変化があれば、報告を行い指示を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時など定期的に訪問し状態報告を受けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行っております。施設の指針を職員把握し、取り組んで参ります。	重度化や終末期支援については、指針を作成しており入居時に医療の設備は整っていないことから介護の対応でよければ可能であることを伝えている。現在、看取りについて家族への説明や事前指定書の確認中である。ホームでの看取り支援ではないが、今年初めに急変により法人の訪問看護との連携で救急搬送された事例がある。管理者は亡くなられた後も自宅を訪れるなど、最終をホームで過ごされた入居者・家族とのご縁を大切にしている。	今回の事例を踏まえ緊急時の対応で再確認が行われている。今後も終末期支援の有無に関わらず、職員のメンタル面を含めた研修会の開催が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の確認を行っております。消防署の普通救命救急講習を受講しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っております。地域との協力体制がとれてません。課題となっております。	今年度は4月に消防署も参加しての総合訓練(夜に脱衣所出火想定)と10月に消防設備業者参加の自主訓練(昼に居室出火想定)が実施されている。訓練後の消防署からの総評の中で、火を出さないことが基本であり、日頃から自主防災に努めて欲しいと指導を受けている。自然災害については訓練は行っていないが、避難場所の経路確認を行っている。備蓄については食料品や水が代表者宅で管理されている。	今後は運営推進会議の中で訓練を検討したり、地域との協力体制として、まずは訓練の告知を近隣へすることも必要と思われる。また、日々の安全チェック表を日誌の中に組み入れることで活用しやすくなると思われる。合わせてホーム内での災害備蓄への取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方、その方の人格を尊重し失礼のないよう心掛けております。	入居者への声掛けは方言を取り入れかたくならないようにしながらも失礼の無いように努めている。入居者一人ひとりの尊重は会議の中で意思統一を図り、食事中のエプロンの使用についても、タオルやひざ掛けを使ってみるなど職員間で検討を重ね最良の方法で対応している。個人情報の使用については家族の了解を得、職員の守秘義務の徹底は代表者や管理者より口頭で指導が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の話し掛けなどで希望を聞き、出来るだけ希望を取り入れるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いっしょに、ゆっくりと。慌ただしく時間が流れる事はありませんが、全利用者様の希望に添えての支援は出来ていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設外に出られる時など声掛けを行っている。施設に居られる時も同じ服装にならないよう心掛けています。理美容も声掛け行い整髪しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや、皿洗い、皿拭きなど行える方は行って頂いております。好みも聞き取り、味付け、盛り付けにも注意しております。	入居者の希望や郷土食も取り入れた献立は、専任者を中心に調理や食材購入が行われている。盛りつけや料理に合った器の使用も食欲をそそるものであり、誕生会では入居者の出した希望メニュー(刺身・茶碗蒸し・ステーキ)に担当者が特に腕をふるい大好評のようである。入居者は食器洗いや台拭を手伝ったり、梅干作りなど職員と一緒にすることで食への関わりを持っている。	日々の食時やピクニック弁当を持つての花見など楽しい食事の場面が提供されている。今後は検食簿の中に入居者の発せられた言葉なども記入することで、献立作成や会話のきっかけにも生かせると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて評価行っております。食事、水分形態の検討も行いながら体調管理に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアの声掛け、介助行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しトイレの声掛け、誘導を行っております。リハビリパンツ、パットも使い分けております。	夜間は身体や安眠面への配慮からポータブルトイレやオムツ使用の方もおられるが、日中は声かけ・誘導によりトイレでの排泄を支援している。リハビリパンツや布下着、尿とりの併用など個々の状況に応じた排泄用品を検討し、自立の継続や不快無く気持ちよい時間を過ごせるように努めている。ポータブルトイレの内ケースは毎日、本体も天候の良い日に日光に干すなど清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難のある方には個々に合わせた内服管理、排便状態の観察を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間での入浴は実施出来ておりませんが、日中に関しては声掛けを行い、利用者様の良い時に入って頂いております。	入浴は日中が基本であるが時間に関しては希望に応じ、毎回湯を入れ替え対応している。ホームでは季節湯を取り入れており、五月の節句では菖蒲を頭に巻く方や湯船に入れたり、母の日のカーネーション風呂も好評である。また、冬至では、自宅に帰省した入居者が庭先から摘んだ柚子も使用されている。脱衣場には座り心地のよいベンチが置かれており、入浴の前後の寛ぎのスペースとなっている。	季節を楽しむ入浴が支援されており、今後はホールや浴室入口などに事前に変更湯の告知ポスターを掲示することも良いと思われる。また、脱衣所に置かれた洗剤や物品については収納方法を検討することで、更に寛げる空間になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて臥床して頂いております。昼間の臥床時間が長くないよう声掛けを行い、夜間よく休めるよう心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表を作成し、副作用の確認を行っております。誤薬が無いよう服薬管理に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設だけの生活にならないよう、野外活動を充実させ趣味活動や散歩、ドライブなど気分転換を図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候をみながら野外活動を行っております。季節ごとの行事、お祭りなど出掛けるように努めております。遠方に出掛ける場合はご家族に連絡し出掛けるようにしております。	地元ならではの祭り、季節の花見など車を使用した外出や、庭先の散歩・日光浴など身近な外出の機会を支援している。また、個別外出として買い物や、「あの花が咲いているから帰りたい！」と言われた方に同行した際は、庭木の手入れや草花を摘んで安心してホームへ帰ってこられたようである。中には自販機で好みの缶コーヒー購入したり空き缶返却を日課とされる方もおられる。遠方への外出時には家族の面会と重ならないように事前に連絡をするなど配慮している。	ホームの庭先は樹木や草花など季節を感じる環境である。今後は職員もそれらの花や木々の名前を入居者にも尋ねながら習得することで、散歩の楽しみや会話の内容も深まっていくと思われる。取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時や生活用品等は預かり金で賄っておりますが、買い物など行かれた際はご自身でお支払いして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ない方、電話出来る方には電話にてお話して頂いております。年賀状は全利用者様書いて頂き、ご家族、親しい方にだして頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたカレンダー作りをして頂き、毎月掲示しております。飾り付けもその時折に合わせて行っております。	ホームの裏庭に立つと見慣れた山々や田畑、眼下には地域の光景が望め落ち着ける立地環境である。ホーム内も入居者による季節のカレンダーや玄関に飾られたカラービニールを使ったこいのぼりなど、職員のアイディアが活かされた空間は来訪者の目も楽しませている。日中の殆どを過ごすリビングホールは、特に換気や入居者に確認を行いながら室温管理が徹底されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室でゆっくり過ごして頂けるようにしております。日当たりも良く、テラスでお話などされ過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご自宅で使用しておられた物等、持って来て頂くよう声掛けを行っております。各居室、ご自由に使用しやすいよう配置しております。	それぞれの居室入口には異なった押し花アートが表札代わりに飾られている。二部屋を寝室と荷物を収納する部屋に使用する夫婦入居者やぐっすりとお眠り朝一番に起床して朝食準備を手伝われる方、健康面から加湿器を持参されている方など一人ひとりの居室環境である。職員は日々の掃除や物品の配置など安全面にも配慮しながら家族の状況に応じた衣類の管理も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっておりますが、玄関、居室から外に出る場合は段差があります。生活の一部としてあえて段差をのこしております。入所前にご家族にはご説明を行い了承を得ております。		